

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。
■文中で旧 URL (<http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>) を記載している場合、新 URL (<http://agri.net>) に読み替えてください。

平成18年1月発行

病害虫防除技術情報 NO.17-2

岩手県病害虫防除所

除草剤を利用した畦畔雑草管理による斑点米カメムシ被害軽減事例

7月上旬から収穫期まで草刈り及び除草剤によりの畦畔管理を徹底した。これにより殺虫剤を使用しなくとも、慣行防除と同等に被害を軽減する効果事例が認められた。このことから早期から収穫期までの畦畔管理により殺虫剤を使用しなくとも斑点米被害を軽減できる可能性が示唆された。抑草方法及び時期については今後さらに検討が必要である。

1 背景

カスカメムシ等による斑点米は畦畔の雑草管理が不十分な場合は、被害が助長されることがある。耕種的防除対策として出穂 10～15 日前までに畦畔の一斉除草が指導されているが、それ以前および出穂後の畦畔管理についての知見は少ない。平成17年から病害虫防除農業リスク低減技術確立「斑点米カメムシ類の総合防除体系の除草」において雑草管理によるカスカメムシ類の本田消長並びに被害状況を調査している。そこで事業初年度の一事例だけではあるが、出穂20日前から9月上旬まで畦畔雑草を出穂させない管理を行った結果、畦畔及び本田におけるカスカメムシ類の密度低減が確認されたので、この事例について取りまとめた。



畦畔のイタリアンライグラスに集まるアカスジカスカメムシ

2 除草区における農薬の散布及び畦畔管理

除草区における農薬の使用状況および畦畔管理は表1のとおりである。畦畔の状況は、除草区では水稻の出穂以降も、イネ科雑草の出穂が抑制された。また、慣行区では8月18日にはメヒシバの出穂が多くみられた(図1)。

表1 除草区及び慣行区における畦畔の管理と農薬の使用状況

区名	品種	出穂	殺虫剤	畦畔の雑草管理	本田内雑草管理
除草区 (30a)	ヒメノモチ	8/2	—	7/13 畦畔草刈 7/29 グルホシネート液剤散布 8/24 グルホシネート液剤散布	5/20 オキサジクロメホン・クロメツブ・ベンスルフロンメチル粒剤
慣行区 (30a)	ヒメノモチ	8/3	8/12 ジノテフラン粉剤D Lを動散で全面散布	7/25 畦畔草刈 8/20 畦畔草刈	

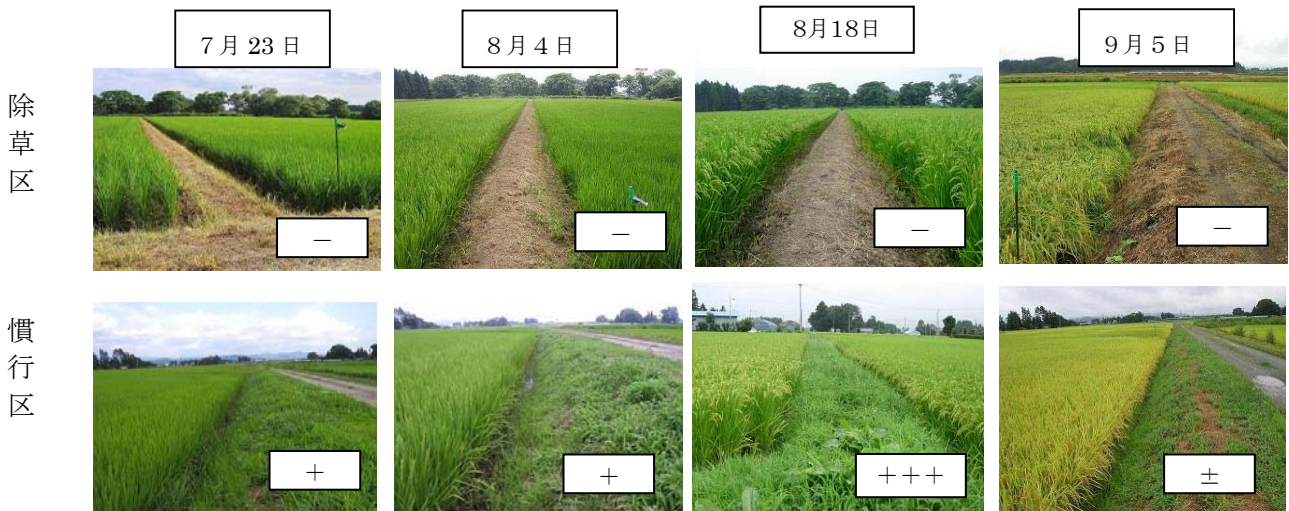


図1 除草区と慣行区における畦畔の状況

(図中の—、+は畦畔の出穂したイネ科雑草量：—無～++++多)

3 除草区および慣行区における斑点米カメムシの発生状況

除草区では草刈り直後にカスミカメムシ類がみられたが、10日後にはカスミカメムシ類が畦畔からみられなくなった。それ以降、畦畔におけるカスミカメムシ類は極めて少なく推移した。本田においては出穂後ごくわずかに飛び込みよと思われる個体がすくい取られた。

一方、慣行区では7月25日の草刈りにより一時的に密度が減少したが、出穂後も畦畔でカスミカメムシ類がみられた。また、本田においても出穂期から成虫の飛び込みがみられ、殺虫剤が散布されるまで多くの個体がみられた。

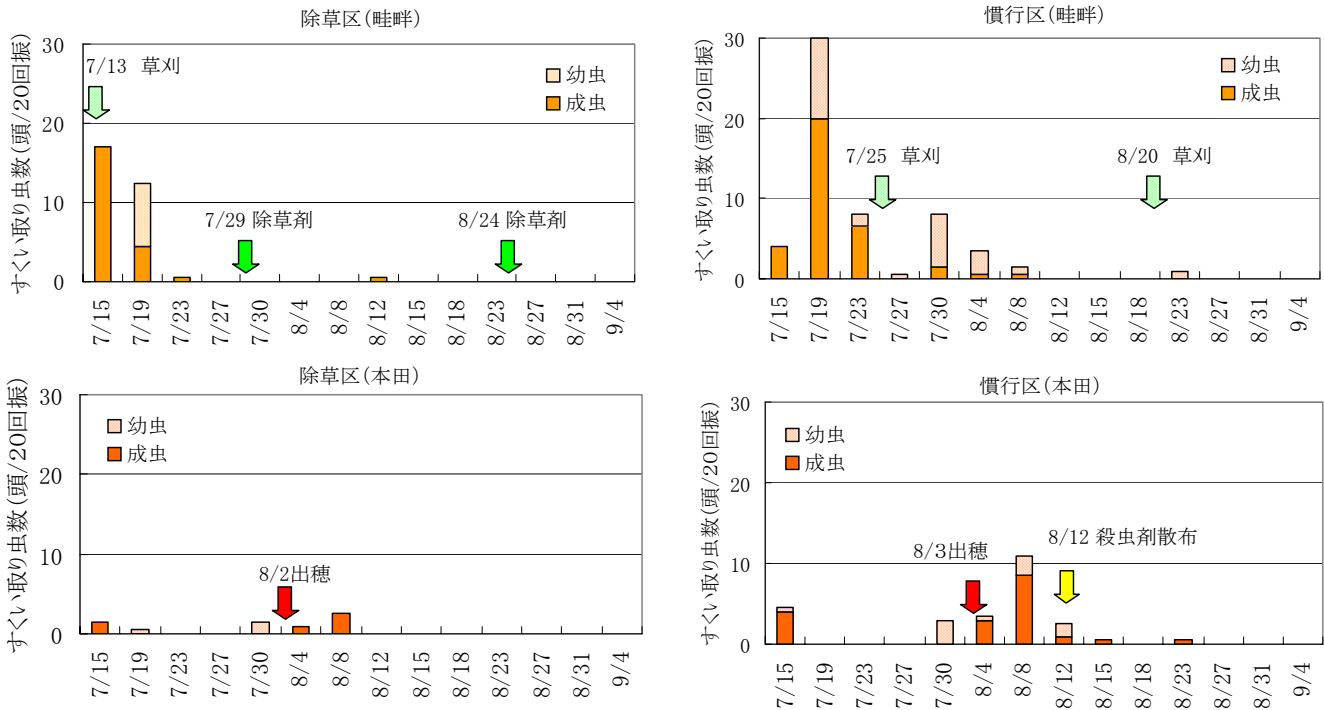


図2 除草区と慣行区におけるカスミカメムシ類のすくい取り消長
(成虫・幼虫ともアカスジカスミカメとアカヒゲホソドリカスミカメの合計数)

4 斑点米等発生状況

除草区において斑点米混入率(1.9mm 以上)は殺虫剤を散布した慣行区とほぼ同等であった。また 1.9mm 以下では斑点米被害は慣行区より少なかった。

表2 除草区と慣行区における斑点米被害状況

	割粉率 (%)	調査粒数 (粒)	斑点米混入率 (%)			計	参考 本田内の雑草量 (イヌホタルイ・シズイ)
			1.9mm 以上	1.8~1.9mm	1.8mm 未満		
除草区	30.3	4,554	0.1	0.0	0.0	0.1	0.042本/m ²
慣行区	22.0	4,140	0.1	0.9	3.4	0.2	0.032本/m ²

※雑草量調査時は、雑草は出穂していた



本田内のイヌホタルイとアカスジカスミカメ成虫

5 留意事項

- (1) 長期にわたる畦畔除草の徹底により、畦畔及び本田におけるカスミカメムシ類の密度が抑制される傾向がみられた。
- (2) 畦畔及び本田にカスミカメムシ類の発生が少なくとも周辺に発生源がある場合は出穂～開花期に本田への飛び込みによる被害がみられることがある。
- (3) 畦畔への除草剤散布は、特別栽培米における農薬の使用回数には含まれない。
- (4) 今回の事例ではカスミカメムシ類を対象とした畦畔管理は7月上旬から、草刈りと除草剤を併用したが、抑草方法および時期については今後、検証が必要である。